

# 1. 調査報告概要表

作成日平成19年 5月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172600625
法人名	社会福祉法人新生会
事業所名	グループホーム弥生
所在地 (電話番号)	岐阜県揖斐郡池田町宮地1175番地 (電話) 0585-45-0760
評価機関名	特定非営利活動法人ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年5月26日

## 【情報提供票より】(平成19年 5月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 5人, 非常勤 10人, 常勤換算	7.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート+鉄構造+木造 造り		
	1階建て	1階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	108,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有( ) 円	無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 600,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.9歳	最低	81歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村千賀子医院、香田歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム弥生は、市街地から少し離れ、濃尾平野が一望できる緑豊かな高台にあり、併設のデイサービスセンター、同一敷地内にある住宅型有料老人ホーム群とともに、一つのコミュニティを形成している。ホーム内は明るくゆとりのある空間が広がり、自由に過ごせる共用スペースも複数設けられている。入居者は、ホーム内や居室から車いすで出られるデッキ、併設されたデイサービスセンター等で、自由に過ごしている。また、母体法人には高齢者ケア30余年の実績があり、施設長をはじめ職員全員が、理念と信念を持って、一人ひとりを大切にケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果に基づき、洗剤の保管場所の変更や昼食後の口腔ケアの働きかけを行うように改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を職員個々の振り返りにつなげるために、全員で取り組み、全員の意見が反映されるようまとめられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、元家族、ボランティア代表、民生委員、地元区長、地域包括支援センター職員等で構成されている。会議で出された「グループホームの実態がよくわからない」という意見に対し、委員のための見学会を2回開催している。また、認知症についての理解を深めるために、学習会を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の近況を面会時に伝えるとともに、家族の要望等を聞き取るようにしている(面会の少ない家族の場合は、電話等を利用している)。また、カンファレンス時に家族にも同席してもらったり、家族交流会の場でも家族からの意見・要望等を聞き取る時間を設けている。なお、家族からの要望等へはミーティング等で検討した上で、職員全員で取り組むようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者も地域の一人との考えに基づき、社会とのつながりを大切にしている。日常的に保育園児や小学生との交流がある他、老人クラブの行事への参加、地元の文化祭への作品の出品、春祭りへの参加などが行われている。また、ホームの行事にも地域の人たちを招待するなど、双方向の交流が続けられている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念とは別に、一人ひとりの生活背景・生活文化といったものを大切にしながら、地域住民・地域文化との交流を図るという理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室に理念を掲げているほか、新人研修、リーダー研修といった階層的な研修の場や毎月の会議の場で常に理念に基づいた実践ができているか振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の保育園児や小学生との定期的な交流、老人クラブの行事や地元自治会の行事への参加、また施設行事への地域住民の招待など、地域との交流が盛んに行われている。	○	現在実践している弥生通信(事業所便り)の配布は地域住民に事業所の理念や役割を広く啓発できる有効な手段の一つである。プライバシーを配慮した上で、さらに広く地域住民に働きかけをしていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員全員で取り組むことで、自分たちの実践の振り返りにつなげている。また、前回の外部評価における要改善点については、改善の取り組みがみられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、事業所の取り組みを報告している。また、会議の場で出された意見に基づいて事業所の見学会や認知症の学習会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、事業所の行事に町の担当者や町長を招待し、事業所に対する理解を深めてもらい、協力を得られるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族向けに「弥生通信(事業所便り)」を年に3~4回発行し、家族に利用者の様子を伝えている。また、面会時やカンファレンスの際にも家族に利用者の様子を伝えているが、面会の少ない家族には電話等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際やカンファレンス、また家族交流会の場で家族の意見や要望を聞く機会を設けている。なお、家族からの要望に応じて改善の取り組みが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚や出産等による異動はあったが、利用者へ配慮し、併設されているデイサービスセンターの職員をスライドさせたり、一度に複数の職員が異動しないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で計画的に行われている階層的な研修に参加するほか、OJTの実施や外部研修(県グループホーム協議会の研修など)にも計画的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の5事業所で制度の学習やリスクの共有化の取り組みを行っているほか、県グループホーム協議会に入会し、研修等を通じて他事業書との情報交換等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「生活の連続性を大切にしたい」という考えから、すぐに入居するのではなく、通いや泊まりの経験をしてもらいながら馴染みの関係をつくったうえで入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護する側と介護される側という関係ではなく、ご利用者を人生の先輩として敬う姿勢で接しており、ご利用者から学ぶ場面や共に活動する場面も多く設けられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスには家族と共にご利用者にも参加してもらい、意向を把握するようにしている。また、面会時を利用し、随時家族の意向や希望を聞き取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは入居者毎に担当の職員がモニタリングの実施と原案の作成を行い、週1回開催される会議の場で、他の職員の意見も取り入れながら、計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、入居者の状況に合わせて期間が設定されており、その期間に応じて見直しが行われている。なお、病気等ご利用者の状況に大きな変化がある場合は、随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス利用者の緊急時のショート利用や、ターミナルケアの実施など、ご利用者やご家族の状況に応じて対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が在宅時のかかりつけ医(2か所)に往診してもらっているが、町外から入居しているご利用者等については、家族、本人の了解を得て、協力医療機関に往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の終末期の意向を確認している。また、情報提供が事業所の役割との考えから、カンファレンス等の際に話し合うようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時には一人になれるように少し離れた場所で見守るといった基本的なことが実践されている。また、書類等で把握している個人の情報でも、本人との会話の中で得た情報のみを使うといった取り組みも行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は併設のデイサービスセンターのレクリエーションに参加したり、気の合う人同士でおしゃべりを楽しむなどして過ごしているが、本人の希望を聞くということを徹底している。希望の表出がないご利用者への働きかけも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意向に沿って献立を考えたり、一緒に調理をし、会話を楽しみながら食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおまかな予定は立てられているが、16:00～20:00までの間で希望に応じて入浴することができるようになってる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、調理や食器洗い、洗濯、趣味をいかした活動など、一人ひとりの能力や希望に応じて、役割や楽しみのある生活を送っている。なお、役割や出番の少ない人にも、事業所がその人にあった役割・出番を見いだすようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が自由に戸外に出かける様子が見られた。また、事業所も屋上やデッキ、近くの公園等でティータイムを持つなど、屋内に閉じこもらない支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室とも日中は鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て訓練を行っている。また、訓練には昨年からの地元自治会の区長に参加してもらっており、今年度は地域住民との合同訓練を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、主食と副食の摂取量を記録している。また、月1回法人の栄養士に献立を確認してもらい、アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自由に過ごせる共用スペースが3か所あり、それぞれがご利用者の生活や活動の場面に応じて利用できるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の連続性を大切にしたい」という考えから、入居時に馴染みの家具や思い出の品を持ち込んでもらうようにしており、居室はご利用者の個性や好みによる違いが見られた。		